

令和元年度第1回山形県自転車ネットワーク計画検討会における 委員からの主な質問・意見

(1) 検討の進め方について

委員からの意見

第2回検討会でモデルルート of 原案を示す際には、日程に余裕をもって事前に示してほしい。

(2) 山形県自転車ネットワーク計画について

I サイクリングモデルルート設定の考え方

委員からの質問

どの程度の規模の観光地を組み込んでルートを設定するのか。また、冬期間のルートはどう考えるか。

事務局からの回答

入込み客数が一定以上の観光地を組み込む等、ある程度絞ってルートを設定したい。また、山形県は豪雪地帯であることから、グリーン期の誘客を念頭にルート設定をしたい。

委員からの意見

最上川沿いの幹線道路を基本として基幹ルートを設定すると、自転車の通行に適さない箇所もある。場合によっては幹線ではない道路も検討していただきたい。

委員からの意見

初心者や健康目的で自転車に乗る人を想定すると、休憩を取る目安を示す必要がある。様々な人が実際に走行したデータや感想を集め、適切な休憩ポイントを考慮してルートを設定すると幅広い世代での健康増進に応用できると思う。

II 通行空間の整備方針の考え方

III 通行空間の管理方針の考え方

委員からの意見

案内看板については矢印だけではなく行先も示す形で計画し、設置位置や色は周辺自治体との連続性があると良い。路面に配置する自転車マークについては、考案時は山形県であることを想定できるようなマークにしてほしい。自転車の安全走行については、橋梁の継ぎ目や路面の溝（グルーピング）等について改善をお願いしたい。

委員からの質問

ルートを選定する際には、危険箇所（自転車走行空間に樹木の枝だ伸びてきている箇所等）をどこまでチェックするのか。また、同じ観光地に向かうルートが数パターン想定される場合は、どのような優先順位で選定するのか。

事務局からの回答

長期的に管理が可能な路線をルートとして選定する。また、数パターンのルートが想定される場合は、長所・短所を整理しながらどの路線を優先するかを決定する。

IV サイクリストの受入環境

委員からの質問

外国人旅行者にとって専門のサイクリングガイドがいれば安心材料になる。決して英語が堪能である必要はなく、安全にガイドするために必要な英語を知っていることが重要である。県としては英語や他言語のサイクリングガイド育成を考えているか。

事務局からの回答

必要性は認識しているが、「いつまでに」「どれだけ」育成するというところまでは描けていない。

委員からの意見

受け入れ環境整備には地域住民の理解が必要である。市町村等が管理する施設に民間事業者がサイクルラックを設置しようとする場合、管理者の許可が必要になる。県におかれては、市町村等と連携して民間事業者が受け入れ環境整備に取り組みやすい環境を整えてほしい。